



R4. 5. 25撮影

## 【巻頭言】

## 「変化に対応する力（適応力）」

福島県小学校長会安達支会長 大内 雅之  
 (二本松市立二本松北小学校長)

私は、福島市から通勤しています。通勤時間を有効に活用したいと考え、YouTube の講演を聴きながら学校を目指すことがあります。(もちろん音だけです。ご安心を。)

その中の一つでビジネスの世界の話でしたが、心に残っている講演があります。こんな内容でした。

「社会に残り続けるために必要なものは何だと思いますか。」

→観客「お金・資金力?」「時代の先読み?」「体力?」「強さ?」「ネットワーク/つながり?」

「ちょっと考えてみましょう。太古の昔、恐竜が生きていた時代がありました。ですが、今は人間の時代です。なぜ、恐竜から人間へと時代は変わったのでしょうか?」

「恐竜と人間、体が大きいのは一般的にどちらですか。」→観客「恐竜」

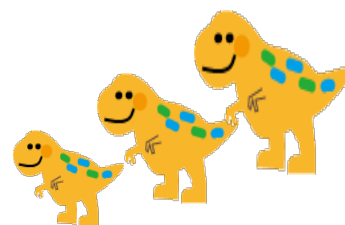
「恐竜と人間、まともに戦って強いのはどちらですか。」→観客「恐竜」

「恐竜と人間、今も生き残っているのはどちらですか。」→観客「人間」

「では・・・生き残るために必要なことは何なのでしょう。体の大きさですか?強さですか?」

→観客「・・・」

「社会に残り続けるために必要な力は「変化に対応する力（適応力）」です。氷河期にも、像やライオンなど体の大きい生物や自分より強い生物との共存にも適応した人間と氷河期に適応できずに絶滅した恐竜の違い。それこそが「変化に対応する力（適応力）」です。・・・・・・・・・・」



さらに、その講演は続きます。いろいろとデータの違いはあるようですが、会社がスタートしてその後生き残っていく確率（会社生存率）は、かなり厳しい状況にあることは間違いないというのです。ある統計では、10年後は6.3%しか生き残れない、つまり90%以上は潰れてしまうというデータもあるようです。社会の変化に会社に対応できずに、収益が上がらなくなってしまったのが主な原因だということです。

ICT化が進み、スマートフォンが日常と切り離せなくなっている現代は、スマートフォン登場の約20年前と比べると情報量が30倍以上になっているという話もあります。言い換えれば、30倍以上のスピードで社会が変わっているのと同じと言うのです。その場に留まること、変化しないことは、時代に遅れること以外の何物でもない、会社で言えば倒産の危機にあるということでした。



講演はビジネスの世界を例にしたものでしたが、学校はどうなのでしょう。主体的・対話的で深い学びを目指す授業の進め方しかり、ギガスクール構想、タブレットの活用法しかり、日々変化する新型コロナウイルス感染症の状況への対応しかり、生活経験や考え方が違う子どもや保護者への対応の仕方しかり・・・。(すべて私自身の反省です。) どんどん変化している中で、学校の変化は?学校だけ取り残されている、遅れをとっているのではないかと感じているのは私だけでしょうか。

校長として、気があっても、日々の仕事や、多忙(感)を言い訳にしたり、これまでの方法にとられていたり、「●●すべき」という自分の経験から生まれた個人的価値観を判断基準にしていたり・・・。変化することに目を背けがちな自分がいるように思えるのです。もちろん、どんなに社会が変わろうと変えてはいけないものもあるのは分かるのですが、このままでは学校の危機、教育の危機では・・・。さあ、まずは校長から「レッツ、チャレンジ!!」「レッツ、チェンジ!!」。

## 【総務部活動計画】

## 「安達は一つ」を実効あるものに

総務部長 鈴木 規男  
(本宮市立本宮まゆみ小学校)

## 1 活動方針と活動内容

- (1) 全国・東北・県小学校長会との緊密な連携と調整のもと、諸会議の充実を図る。
  - 第74回全国小学校長会研究協議会島根大会
  - 第62回東北連合小学校長会研究協議会岩手大会
- (2) 支会・各専門部の組織を十分機能させ、計画的かつ継続的な活動を展開し、特色ある学校経営の創造に資する。
  - 年間計画に基づく研修や情報交換
    - ・全体研修会、方部別研修会
    - ・各専門部の活動と情報交換
  - 創意工夫ある運営
    - ・活動内容の方法の工夫
- (3) 各種教育団体との連携を密にし、安達地区内の教育課題の解決に資する。
  - 県小教研研究協議会の開催
    - ・社会科部会への支援
  - 地区小中学校長協議会との連携活動
    - ・総会 (4月 4日)
    - ・安達地区教育長との懇談会 (8月19日)
    - ・退職校長会との懇談会 (12月 2日)
    - ・退職校長感謝会 (3月17日)
    - ・中堅教員等実務研修会 (6月～7月)
  - 小中学校音楽祭、理科作品展、特別支援学級中学校区別小中交流会・児童作品展他

## 2 「安達は一つ」を実効あるものに

新型コロナウイルス感染症対策を始め、山積する現場の課題解決に向け、25名の会員が胸襟を開いて常に語り合い、情報を共有し続けていきたい。研修会時ばかりでなく、日常的に校長の在り方や関わり方について研修を深め、「安達は一つ」を実効あるものとしていきたいと考えている。

## 【経理部活動計画】

## 適正・円滑な経理を期して

経理部長 草野 節生  
(二本松市立原瀬小学校)

## 1 活動の基本

全国・東北・県小学校長会の動向を踏まえ、本会の目的に沿った質の高い活動が展開できるよう、適正な予算編成や円滑な執行にあたる。

## 2 会費の執行状況

- (1) 今年度会費 (一人あたり) 69,600円
- (2) 今年度の各負担金 (一人あたり)
  - 県小学校長会費 30,000円
  - 研究大会基金 1,000円
  - 東北連小会費 2,000円
  - 東北連小準備金 300円
  - 全連小会費 8,000円
  - 日本教育会費 3,100円
  - 小中連協会費 11,000円
  - 大会参加旅費積立金 1,000円

※ 全連小会費が、今年度より8,000円に変更されております。
- (3) 賛助会費 (一人あたり)
  - 退職校長会賛助会費 500円
- (4) 残りの会費
  - ・事業費や運営費等に計画的に充てる。

※ 事業費の中の研修費として、全連小等の大会への参加費や補助を支出するよう予算を組んでいますが、新型コロナウイルスの感染状況により、大会の開催方法の変更等が予想されるため、支出額や内訳が大きく変わる場合があります。
- (5) 旅費について
  - ・校長会研修会は、全て県費旅費となる。

## 3 経理部組織

二本松方部	草野 節生 (原瀬小)
東達方部	紺野 真一 (新殿小)
南達方部	佐藤 聡 (五百川小)

【行財政部活動計画】

教育行政上の課題解決に向けて

行財政部長 穠山 俊之  
(本宮市立本宮小学校)

【研究部活動計画】

第Ⅱ期研究推進

「ふるさとを愛し ともに未来を切り拓くたくましい 子どもを育てる学校経営と校長の在り方」(令和4・5年度の2か年研究)

研究部長 児山 秀典  
(二本松市立油井小学校)

1 活動方針

- (1) 教育行政上の課題解決のために、組織的継続的な対策活動を推進する。
- (2) 当面する課題や新たな視点から調査研究活動を行う。また、特別調査として今年度も大震災・原発事故の影響に係る調査を継続して行うものとする。
- (3) 関係機関との連携を保ち、教育行政上の諸問題について情報を収集するとともに、広報部と連携を図り適時・適切な対応に努める。
- (4) 組織をあげて地域課題を解決するための活動を推進する。

2 活動内容

- (1) 多様な教育活動に対応するための教育条件の整備充実。
- (2) 教職員の待遇改善と福利厚生の上昇。
- (3) 当面する重要課題の調査研究とその課題解決。

3 活動計画

- (1) 行財政部会
  - 組織・活動計画作成 (4月)
  - 調査Ⅰ・Ⅲ及び特別調査の実施 (5月)
  - 行財政上の課題把握 (6・7月)
  - 要望活動の推進 (8月～)
  - 活動の反省 (1月)
  - 人事の反省 (3月)
- (2) 各種県行財政部会等への出席
  - 県行財政部合同部長会・代表部長会
  - 県行財政部幹事会・合同幹事会

4 行財政部組織

二本松方部 八巻 博之 (杉田小)  
東達方部 石川 勝佳 (小浜小)  
南達方部 鈴木 規男 (本宮まゆみ小)

1 活動方針

- (1) 「研究の手引き～校長の在り方(役割と指導性)～」をふまえ「ふるさとを愛しともに未来を切り拓くたくましい子ども」の育成に向けた校長としての取組が明らかになるように進める。
- (2) 研究を校長自身の研鑽の場ととらえ、校長としての考え方や取組が明示されるよう研究を進める。校長会の組織的な研究として質の高い実践研究を進めていく。
- (3) 8月に支会大会を開催し、令和4・5年度の方部研究推進の方向性や取組を確認し合い、さらなる研究実践と職能向上を図る。
- (4) 令和6年度東北連小青森大会発表に向けた準備を計画的に行う。

2 活動内容

- (1) 東北連小岩手大会(盛岡市)12名参加
- (2) 各方部による実践
- (3) 県支会大会報告書の作成(二本松)
- (4) 全連小研究協議会島根大会への参加
- (5) R6東北連小発表に向けた見通しと準備

3 研究組織と令和4年度研究の視点

二本松	方部長 伊藤比呂美 (大平小) [発表支会]	Ⅱ 教育課程 4 豊かな人間性【観点】 「豊かな心を育む道徳教育の推進」
東達	方部長 菅野 芳弘 (旭小) [希望支会]	Ⅴ 教育課題 9 自立と社会性【観点】 「未来への夢や志を育むキャリア教育の推進」
南達	方部長 佐藤 憲博 (和田小) [希望支会]	Ⅱ 教育課程 3 知性・創造性【観点】 「深い学びを実現するための授業改善の推進」

## 【生徒指導部活動計画】

## 生徒指導上の課題解決に向けて

生徒指導部長 伊藤比呂美  
(二本松村立大平小学校)

## 1 活動目標と方針

- (1) 県小学校長会生徒指導部活動方針・重点を踏まえ、本支会における生徒指導上の諸問題及び対応について情報交換を行い、学校経営に役立てる。
- (2) 生徒指導上の共通課題等について解決策を探る。
- (3) 幼稚園・子ども園・保育所や中学校及び関係機関との連携を図り、児童の健全育成に努める。

## 2 活動内容

- (1) 生徒指導上の当面する課題についての情報収集と提供を行う。
  - ① 「心のケア」を必要とする児童の実態調査
  - ② 「いじめ・不登校・虐待・暴力行為」に関する調査
  - ③ 「ネット・SNS利用の実態」ルールに関する調査
- (2) 共通課題解決に向けての実践状況の情報交換、検討協議をする。
- (3) 各中学校区ごとに関係機関との連携を図り幼・小・中の一貫した生徒指導を行う。

## 3 活動計画

- (1) 生徒指導部会
  - 組織・活動計画作成 (4月)
  - 調査の実施 (5～7月)
  - 調査報告書の提供・情報交換 (8月)
  - 今年度の反省と次年度の取組 (2月)
- (2) 各種県生徒指導部会への出席

## 4 生徒指導部組織

二本松方部 佐久間 仁 (塩沢小)  
東達方部 佐藤 和彦 (渋川小)  
南達方部 齋藤 和久 (大山小)

## 【広報部活動計画】

## 学校づくりを支える広報活動

広報部長 小野 明彦  
(二本松市立安達太良小学校)

## 1 活動目標

- (1) 会員の研鑽と交流、学校経営に寄与する広報活動を推進する。
- (2) 関係機関との連携を図り、情報交換や資料提供のための広報活動を推進する。

## 2 活動内容

- (1) 広報「安達太良」の発行 (年3回)
- (2) 地区広報部会の開催と連携
- (3) 県広報部幹事会との連携
- (4) 県会報、校長会のあゆみ、小学校時報への寄稿

## 3 活動方針

- (1) 広報「安達太良」の発行に重点を置き、全会員1回を原則として寄稿を依頼する。
- (2) 校長会組織や担当する領域・分野を生かして寄稿を依頼する。
- (3) 広報の発行は年3回とし、支会の特色を生かし親しみのもてる編集に心がける。
- (4) 県会報等の寄稿については、支会長より依頼する。
- (5) 会員への会報はメールで届ける。

## 4 活動日程

- (1) 広報部の活動計画(第1回研修会にて承認)
- (2) 広報部会 (必要に応じてメール等で)
- (3) 広報の発行予定
 

194号	7月1日
195号	12月1日
196号	3月1日
- (4) 県会報への寄稿
  - ・今年度は、255号県会報「特集テーマ」原稿依頼

## 5 広報部組織

二本松方部 小野 明彦 (安達太良小)  
東達方部 三坂 克典 (川崎小)  
南達方部 相楽 秀幸 (白岩小)

## 【新任校長として】

## 瞳を輝かせて学ぶ姿を

二本松市立渋川小学校 佐藤 和彦

♪春 安達太良の雪とけて 流れる谷や  
おかのべの 若葉のみどり 照り映える♪

校歌の歌詞の通り、緑豊かな高台に学校があります。眼下には弘川が流れ、桜の古木に囲まれた、自然いっぱいの学校です。学校のシンボルとなる檜の木の大木もあります。着任してすぐに満開の桜が学校を彩りました。

朝、元気に「おはようございます」と笑顔であいさつしてくれる91人の子どもたち、職員室に笑顔で出勤してくる教職員。明るい雰囲気です学校がスタートします。

授業が始まると、静かに先生の話聞き、集中して取り組む子どもの姿がどの教室でも見られます。一人ひとりをしっかりと見取り、きめ細やかな指導を行っている先生方がいます。職員も「チーム渋川」として、「子どもたちの笑顔」のために頑張っています。

私も校長としてその一員に加わりました。子どもたちが学びの楽しさを実感し、今日は何を学ぶのかな、と瞳を輝かせて登校する学校、安心して登校できる学校の実現を目指して全職員で協力して取り組んで参ります。

様々な制限のある現状の中、教育活動を工夫して実施し、子どもたちの安全と学びの両立に取り組んできたいと考えております。安達支会の校長先生方には、今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。



## 【新任校長として】

## ふるさとを思う

二本松市立川崎小学校 三坂 克典



本校は平成22年に上川崎小学校と下川崎小学校との統合により川崎小学校として開校し、東野辺薫氏が第18回芥川賞の受賞作品である「和紙」に出てくる紙漉きの集落として有名な地区にある学校です。本地区の紙漉きは平安時代中期から始められたと伝えられており、紫式部や清少納言が使用した「まゆみがみ」は「上川崎和紙」とも言われて、約1000年の歴史がある和紙の産地です。昭和15年の統計では、紙漉き戸数239戸という記録があり、ほとんどの家が紙漉きを生業としていましたが、時代の流れとともに紙漉きを行う家も減り、現在は1戸だけとなっています。この「上川崎和紙」の伝統を守ろうと道の駅「安達（上り）」の「二本松市和紙伝承館」で、現在も和紙の生産が行われています。

本校では、「ふるさと大切にする子どもの育成」を目指し、全学年で「和紙」に関する体験学習を実施しています。小学校6年間で、地域の和紙の伝統を学んだ子どもたちが、将来にわたり自分のふるさとに自信をもち、ふるさとを愛し、そして遠く離れていてもふるさとを思うことのできる人材の育成を行っています。

この3か月を振り返ると、日々、多くの課題に直面し、判断に迷うことばかりでしたが、安達支会の皆様にご指導をいただきながら一歩ずつ着実に前へ進むことができいております。いつも温かく話を聞いていただき、ご助言をくださる諸先輩の皆様へ感謝申し上げます。今後も、どうぞよろしく願いいたします。

## ■ 【新会員として】

## 南小に赴任して

二本松市立二本松南小学校 安齋 憲治

子どもたちの声が響く学校に勤務するのは4年ぶりでした。子どもたちの笑顔に癒やされる心地よさと先生方の献身的な働きぶりに感じる安心感の中、二本松南小学校に勤務しています。

ふと二十数年前に教諭として南小に赴任した当時のことを思い出しました。平成14年4月1日、南小の玄関で、本当に自分が南小の教諭として務まるのだろうかという恐ろしさと緊張で、しばらく立ち尽くしていたことを思い出しました。それほど南小の敬學の精神と伝統は、自分の中では大きなものでした。また、当時ご一緒させて頂いた校長先生はじめ先生方からは、南小のプライドについて教わった感じがします。決して二本松市で一番の学校になるというプライドだけではなく、他の先生と切磋琢磨しながら自分を磨くという意味だと解釈しました。一人一人の教職員が児童に寄り添うことで、子どもたちは、南小の児童の一人であるという自覚をもち、自然に「南小プライド」を身につけることにつながったと思います。

そうしたすばらしい伝統を継承しながら、子どもたち自らがよりよい学校にするという意識を高め、楽しい学校づくりをするための支援をしていきたいと思っています。

現在、コロナ禍で様々な制限もありますが、継続されていた学校行事、PTA行事等の見直しを図るにはよい機会と捉えています。みんなで知恵を出し合い、よりよい学校経営を目指したいと思います。

これからも安達支会の各校長先生方にはご支援、ご指導を賜りながら精一杯力を注いでいきたいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。



「敬學」原書

## ■ 【新会員として】

## つなぐれ ひろがれ 石井のわ

二本松市立石井小学校 松浦 秀行

20年以上前になりますが、私は本宮小学校に勤務していました。ちょうど本宮まゆみ小学校が開校したところです。思い出すのは、活気ある職員室の様子や情熱に満ちた先生方の姿、学校への関心が高く、子どものためならと何でも快く協力して下さる保護者や地域の皆様の姿です。そんな中で、子どもたちはそれぞれの個性を最大限に発揮しながら、楽しく元気に学んでいたように思います。本宮小学校では、6年間お世話になったのですが、ここでの経験が、その後の私の教員として考え方や生き方に大きく影響しています。そんな思い出の安達地区で、再びお世話になることとなり、おこがましいとは思いますが、これまでの自分の経験や知識を生かして、安達地区のお役に立ちたいという思いを強くしているところです。

さて、現在の勤務校である石井小学校では、「つなぐれ 広がれ 石井のわ」のキャッチフレーズのもと、家庭や地域との連携を大切にした道徳教育を推進して



います。昨年度の研究公開では、参加型の道徳授業の実践発表として、保護者の皆さまが子どもたちと一緒に道徳の授業に参加し、ともに学びを深めていく様子を、御参集の100名を超える先生方に見ていただくことができました。本校のこれまでの取組を継続、発展させながら、道徳教育を一層推進していくことが私の務めであると思っています。

コロナ禍にあつて制約も多く、悩みの尽きない毎日ではありますが、どうすることが子どもたちのためになるのかを熟考し、「子どもたちの幸せのために」という共通の願いをもって、家庭や地域と「石井のわ」をつなぎ、広げながら、子どもたちの笑顔を増やしてまいりたいと思います。

最後になりましたが、安達支会の校長先生方には、いつも温かく接していただいておりますことに、心より感謝申し上げます。